

15. 高齢者等への日常生活支援&災害時要援護者支援

グループ名 しんめいがんこおやじの会

代表者 木村和幸

① 活動の目的

少子高齢化・核家族化により地域の繋がりが薄れてゆく今日、当町内においても高齢者の自治会脱退や孤立化もでてきた。たとえ一人暮らしになっても安心して暮らせる町内を再構築し、次世代の子供たちに引き継いでいきたいと願い、高齢者・障害者等を対象に日常生活での困りごとへの支援を行う。

更に今年度は、東海地震等震災における要援護者対策として、安否確認、避難誘導、避難経路・危険箇所の点検、大人から子供たちも体験できる防災マップづくり、避難・救急訓練を行う。

② 活動概要

○高齢者等への日常生活支援（定例事業）

町内に住まう一人暮らし高齢者、高齢者夫婦、障害者世帯などからの要請に基づき実施

内容：電球取替え、警報機取り付け、ゴミだし、掃除、草取り、選定、簡易修理ほか
助成期間中においては、

10/14日

一人暮らし高齢者の玄関手すり設置

4月20日

障害者世帯の手すりと踏み台設置

6月25日 メンバーによる包丁とぎ実施



○災害時要援護者支援（特別事業）

11月23日 災害時要援護者支援事業の進め方について打ち合わせ

「要援護者調査、安否確認・非難誘導担当者の確定、避難経路の安全確認」

「災害時要支援マップづくり」

12月14日

自治会長、班長、民生委員、福祉委員に集まっていたき、我々メンバーと合同で実施した。



- ・町内地図を活用し、地震・洪水・台風を想定して危険箇所、避難経路、避難所等地図への落とし込みを行った。
- ・蓋のない側溝や倒壊危険ブロック塀は無く、気をつけるところは電柱倒壊のみであった。
- ・市指定の避難場所については距離があり、多くの集合には不向きと判断し当自治会の第1避難場所を町内にある「はぐるま公園」とし、町内にはその旨周知した。
- ・災害時要援護者については、民生委員と福祉委員の情報に基づき、地図に落とし込み

それぞれの支援担当者を決定した。また避難時において手助けが必要か、器具等の利用が必要かも検討した結果、車椅子又はリヤカー等が必要な方が2名いた。

- ・災害時に必要な町内での器具備品について議論し、リストアップを行った。

必要な備品を全て町内で購入するには財政的にも無理があり、町内にある資源を調査することになり、町内で「災害時利用可能な備品調査」を実施した。

- ・調査の中で思わぬ発見があった。町内に井戸利用可能な家が8件あり、断水等に対応できる事が分かった。ただし、停電時にどうするかが問題になり発電機の購入を決定する。



(地図に落とし込み)

(リストアップ備品)

- ・チェンソー ・カッター ・ジャッキ ・バール ・発電機 ・照明器具
- ・電気コードリール ・はしご ・脚立 ・井戸水 ・テント ・軽トラック
- ・一輪車 ・リヤカー ・救急薬品 ・滑車 (チェンブロック)

○実施後の成果

- ・この検討会議を通じて町内の実態を確認できたこと、話もしたことの無い人同士の会話もあり、災害時にどうするかという共通の目的に向かって、問題を明らかにし解決策を考えていく中で、町内の連帯感を感じました。

「避難、救急訓練」

- ・災害時要援護者をどうするか、自治会員の安全な避難など議論してきた中で、卓上では出来上がったが、いざという時に実施できるかは普段の訓練によるところが大きいと考え町内全体での避難訓練実施に向けて動き出した。
- ・我々の考えが受け入れてもらえるか、高齢者等は参加できるのか等々の不安があったが最悪我々メンバーだけでもやろうやと決断した。



- ・メンバーとは事前に役割分担を話し合い、自治会長班長さんには趣旨説明を、子供たちにも参加してもらえるよう、子供会にも声をかけてきた。



(避難訓練：大変暑かったので、皆さん周りの木陰で集合)

(避難訓練企画案)

目的 大きな災害時は初期避難が重要であり、安否確認や避難所での生活では、地域の支え合いが大きな力となる。災害への備えや日頃の訓練で災害に強い町内を作りましょう。

期日 9月9日(日) 16時から 場所 はぐるま公園

内容 16時①住民は第1避難場所へ集合(家族・隣近所への声かけ、火・電気の確認)
要援護者支援者は、該当者への声かけと避難支援を
②人員の確認(班長は班員の確認をし自治会長に報告、ケガ不明者の確認)
③消火器訓練

17時④炊き出し訓練(有り合せのもので作ります)

子ども会の皆さんお楽しみ会もありますよ。

主催 神明西三自治会、しんめいがんこおやじの会

(町内への呼びかけ)

自治会の皆さん、頭や知識でわかっている、いざというときに適切な行動が取れるとは限りません。日頃の訓練が大切です。訓練の後は、懇談の場にしたいと思います。皆さんの参加お待ちしております。



(炊き出し)



(一人暮らしの方も参加)

○実施後の驚き(成果)

- ・自治会35世帯中26世帯53名の参加者があった。一人暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯の参加や子供の参加も多くあり、メンバー一同驚きであった。
- ・災害時要援護者を支援する担当者も非難時の声かけを行っていただいたが、そのことが高齢者の安心を生み多くの参加に繋がったと思います。ありがたい一言が嬉しかった。
- ・子供会にも呼びかけした結果多くの参加があり、日ごろ子供たちの姿を見かけない中で元気に遊ばまわる子供の姿を久しぶりに見て、大人たちの顔もほころんでいました。
- ・町内でのお祭りや子供会行事もない中で、老いも若きも久しぶりに一同に会したことが、日頃閉じこもりがちな高齢者を元気付け、災害という統一テーマ沿って皆が一丸となって参加でき協働できたことは、大きな驚きであると同時に、これからも継続して実施して行くことの重要性を認識しました。
- ・1年に1度はやろう！ いや2回ぐらい・・・皆の声に勇気付けられた避難訓練でした。

③ 決算報告書

収入	
大同生命厚生事業団助成金	100,000
寸志(3件)	8,000
神明西三自治会	21,233
合 計	129,233
支出	
事業説明&打ち合わせ会議 弁当@480×10 ((自治会長、班長、民生委員、福祉委員等)	4,886
日常生活支援	5,000
剪定ばさみ @625×8	
災害時要援護者支援(災害時要支援マップづくり)	5,229
蛍光ペン3色セット@210×12	2,646
マジック12色セット@1323×1	1,323
お茶@100×12	1,260
災害時要援護者支援(支援備品の整備)	78,000
発電機@78,000×1	
災害時要援護者支援(避難・救急訓練)	36,118
非常食材(米、副食、調味料等)	21,358
飲料水、氷、シロップ	9,455
消耗品(紙食器、箸、ビニール紐等)	1,619
子ども会用お菓子、花火(15人分)	3,686
合 計	129,233

しんめいがんこおやじの会
日常生活支援事業



(障害者宅 踏み台と手すり設置)



(包丁とぎ 若い世帯に評判)